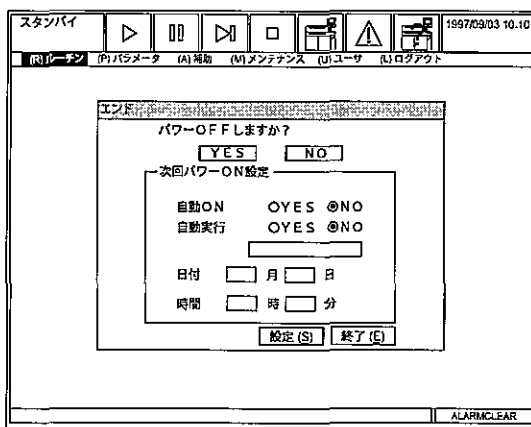
# 5. 終了操作

すべての検体の分析が終了したら、終了操作を行ってください。
終了操作を行っても、装置の電源が完全にOFFになるわけではありません。終了処理後も試薬保冷庫、STATテーブル部、および反応槽(恒温槽)の温度は維持されます。また、ISE(オプション)が搭載されている場合は、ISE(オプション)の洗浄が定期的に自動で行われます。
なお、以降に示す終了操作はW2実行中でも行うことができます。W2実行中に終了操作を行った場合には、W2終了後に装置の電源が自動的にOFFになります。

## ■終了操作を行う

1. すべての検体の分析が終了していることを確認します。
2. 装置がスタンバイモードであることを確認します。
3. フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされていないことを確認します。
   フロッピーディスクがセットされている場合は取り出してください。
4. エンド処理キーを押します。
   終了処理のダイアログが表示されます。

## ⚠ 警　告

分析装置はイオン交換水元栓のコントロールはできません。自動実行のため夜間や休日等にイオン交換水元栓を開放のまま無人放置する場合は、使用者の責任で水漏れがない確実な給水配管であることを事前に確認してください。

## 補　足

次回、装置が自動的に立ち上がるように設定することができます。例えば、"自動パワーON設定"の"自動ON"の"Yes"のオプションボタンを"選択状態"にして、日時を設定すれば、設定した日時に装置が自動的に立ち上がるようになります。
また、装置立ち上げ時にW1やフォトキャル測定などの動作が自動的に行われるように設定することもできます。
"設定"ボタンを選択した後、"自動ON"の"Yes"のオプションボタンと"自動実行"の"Yes"のオプションボタンを"選択状態"にして、"日付"と"時間"を設定してください。設定した後、"終了"ボタンを選択してください。

# 6. 停電時または誤って主電源をOFFにしたときの対処

分析動作中に停電になったり誤って主電源をOFFにしたりすると、検体の受付情報が破棄されます。また、装置の主電源がOFFのまま長時間放置されると、試薬が劣化することがあります。分析可能な状態にするために、以降に示す対処をすみやかに必ず行ってください。
なお、停電が発生した場合には、装置立ち上げ時にメッセージが画面に表示されます。

## ■停電時または誤って主電源をOFFにしたときの対処

停電になったり、誤って主電源をOFFにした場合、またはEM STOPスイッチを押した場合には、以降に示すような対処が必要です。

### ●出力がどこまで完了しているかを確認する

停電または誤って主電源をOFFにした時点でどの検体までの分析が完了していたのか、またどの検体までの分析結果が出力されたのかを確認してください。

### ●再検をどの検体から行うかを確認する

再検ワークリストを出力して、再検を行う必要がある検体を確認してください。

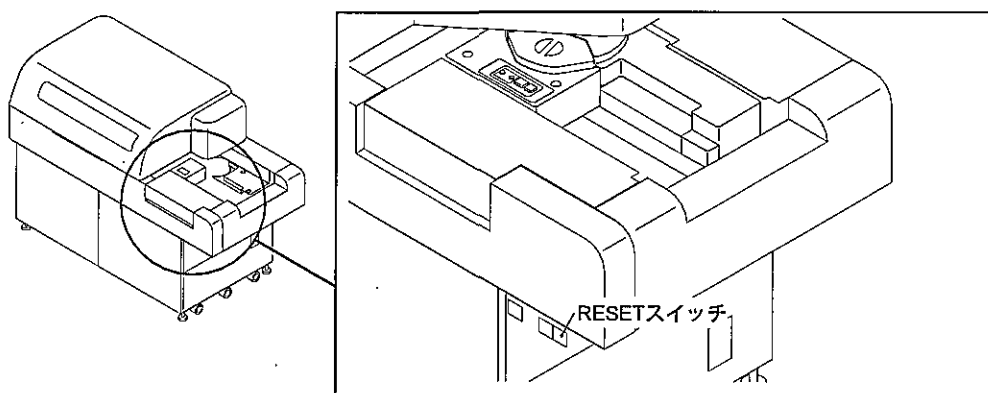
### ●検体の受付操作をやり直す

未分析の検体について、再度受付操作を行ってください。

### ●スタートサンプルNo.を再度設定する

[ルーチン]メニューの中の[スタート条件]で、各種検体のスタートサンプルNo.を設定し直してください。

### ●停電検知回路をリセットする

次回の停電検知のために、必ずRESETスイッチを押してください。

### ●主電源と副電源の両方をONにしてから光源ランプが安定するまで約90分間待つ

恒温槽が冷えていない場合でも主電源と副電源の両方をONにしてから光源ランプが安定するまで約90分間は分析動作を開始しないでください。待たずに分析動作を開始すると、適切な分析結果を得られないことがあります。